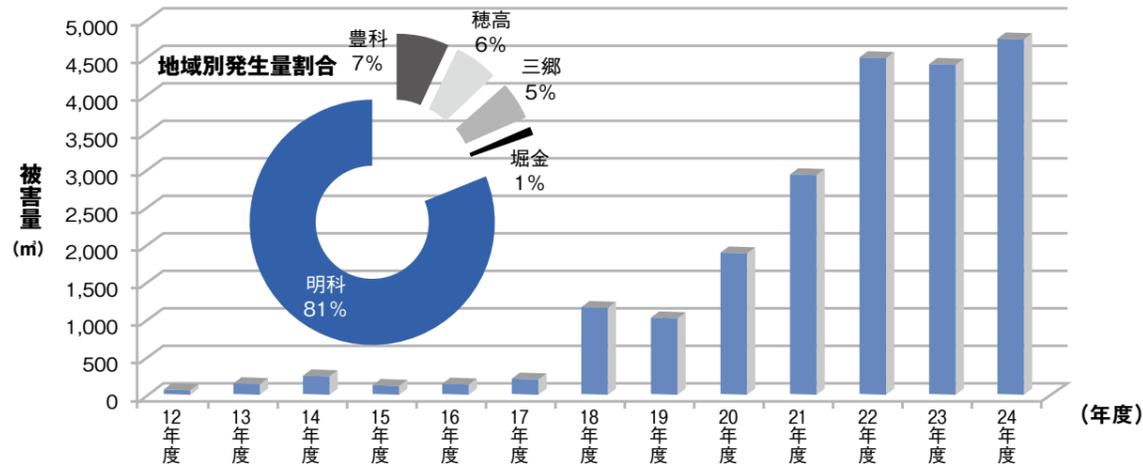


市内の松くい虫被害の状況 (グラフ1)



病原体

マツノザイセンチュウ

長さ1mm足らずの小さな線虫が松の材内に侵入して、松は水を吸い上げられなくなることなどにより枯れてしまいます。



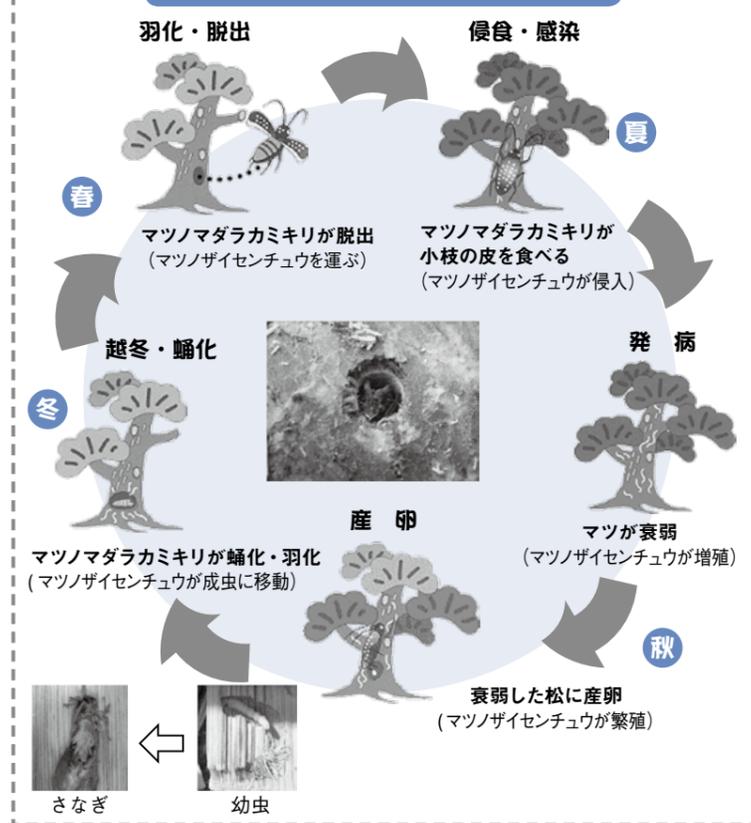
媒介昆虫

マツノマダラカミキリ

体長3cmほどのカミキリムシの一種で、健康な松へマツノザイセンチュウを運びます。



松くい虫被害のメカニズム



松くい虫被害とは「マツノザイセンチュウ」(以下、線虫)という、北アメリカ原産の線虫が原因で松が枯れることを指します。この線虫は、成虫でも体長は1ミリほどの大きさで、日本へは北アメリカからの輸入材と一緒にやってきたと考えられています。この線虫が健康な松の幹で爆発的に増えることで、松が水を吸い上げられなくなり、枯れてしまいます。

この線虫を松に運ぶのがマツノマダラカミキリ(以下、カミキリムシ)です。このカミキリムシは、線虫で弱った松の幹に卵を産みます。ふ化した幼虫は松の幹を食べ成長し、さなぎになります。その際、移動手段を持たない線虫は、カミキリムシのさなぎの体内に集まることで羽化したカミキリムシの成虫と共に健康な松に移動します。カミキリムシが松の新芽を食べる際に、線虫はその松に移り同じように増えることで再び松を枯らします。

松くい虫被害の仕組み

また、個人宅や地域の神社、寺の敷地内にある松でも松くい虫被害が報告されています。

松くい虫被害の拡大を防ぐためには早期発見・対処が重要です。松の異常を発見したら三郷総合支所内耕地林務課にご相談ください。

◎特集 市内で拡大

松くい虫被害

市内では平成18年度以降、明科・豊科地域の東山地域を中心に松くい虫の被害が深刻な問題となっています。松くい虫被害の現状と市の取り組みをお知らせします。



【写真】被害が深刻な押野山一帯 (明科七貴)

明科地域で深刻な被害 駆除量の約8割

市では、合併前の平成12年度に松くい虫の被害が市内で初めて確認されてから、被害地域において被害木を駆除(伐倒くん蒸および破砕処理)し、防除を推進してきました。

しかし、松くい虫被害は年々増え、平成18年度には前年比5.3倍と激増し、その後も増え続けています。特に明科地域に被害が集中し、今まで行った駆除量の約8割を占めています。その中でも、押野山をはじめとする川西地区(明科七貴・明科南陸郷)、生坂村と隣接する生野地区(明科東川手)については特に被害が深刻になっています。(左ページグラフ)